

共生型常設型居場所をどう広げるか

提言

誰もがいつでも居られる場をつくり、
自然に頼みやすい関係を
地域に広げていこう

登壇者

【進行役】	鶴山 芳子	(公財) さわやか福祉財団理事
	河田 圭子氏	地域の茶の間創設者
	稲葉 ゆり子氏	たすけあい遠州代表、高南の居場所あえるもん代表
	浦田 愛氏	(社福) 文京区社会福祉協議会
	田中 康裕氏	Ibasho Japan 代表、千里ニュータウン研究・情報センター事務局長

■ 寄せられた声から

- 成功例は素晴らしいものばかりでした。その中でコロナ禍の状況や危機感を伺えたのもよかったです。マイナスに思えることも状況に合わせて柔軟に対応する実践には頭が下がります。「どなたでもどうぞ」が周知され広がる難しさと面白さを感じました。
- いつでも誰でも来ていい場所＝常設多機能型＝ゆるやかにつながり、みんなの出番がつけられる所を目指したいと思いました。「話がしたい」は「聴いてほしい」ということ。「助けてと言われるとうれしい」には参りました(笑)。ここに来てよかった、楽しかったと思ってもらえることを続けていくと、一緒にやっていく仲間が増えて、やれることも広がるんですね！みんなが楽しく過ごせる場所、時間をつくって行くぞ！
- 共生型常設型居場所は、子供たちの世代にも必要な場であると痛感しました。さわやか福祉財団で行っている、地域づくり、居場所づくりのアドバイスは、長期スパンで継続していただきたいです。

議事要旨 鶴山 芳子

「いつでも誰でも型」居場所の実践者とSCら仕掛ける側、研究者で、「居場所で生まれる関係から『助けて』と言ひ合えるために何を大切に、どのようにリードしていけばよいか」について議論をした。

○「助けて！」と言われることはうれしいこと。

人と人との間に安心感が築かれていく

「助けるほうは簡単だけれど、『助けて！』と言うのはなかなか難しいのでは」と進行役が問うと、稲葉さんは「実は『助けて！』と言われることはうれしいことなんです。『助けるける側はとてもうれしい』と伝え、頼む側の気持ちを楽にする」。河田さんは「助けてと言われることは信頼されていてうれしいし、何かあったときに助けてもらえるという安心感を根底に持っているのが大きい」と話した。

○いろいろな人たちが「居合わせる」場所と距離感

コロナ禍で参加者が固定化する体験をした河田さんは「仲の良い人たちだけが集まると、話題が個人や身近な人などになりがちで、家に帰ってからや陰でプライバシーに関わる話が回っていくという恐ろしさを感じた。しかし、いろいろな人たちが居る場だと話題が広がる」と、ごちゃまぜの居場所の重要性を話した。「居ない人のことは言わない」などの決まり事が「適度な距離感」を保ち、助け合う関係につながっていくのであろう。

○「助けて！」と言ひやすくなる工夫は

負担感を解消すること

浦田さんは「知り合い、気かけ合ひ中で『あっ、この人なら』と思える人に言ってみる」と助け合ひには段階があるという。そんな中で、「困っている様子を目に

して『私でよかったら』という言葉が出てほしいと助け合ひ券を使っている」と河田さん。稲葉さんは「地域通貨を渡すと『ありがとうを返した』となる」と話した。田中さんは「助けてもらひ続けると負担になるのではないかと」と言い、「地域通貨は助けてもらったときに感じる負担感をお返しするような仕組み。例えば、90代の女性がお世話されるだけでは申し訳ないと小麦粉を持って来た。その時に『ありがとう』と言ってその気持ちを受け取るという意識も大切なのではないかと」と話した。「ありがとう」は助けられる側の気持ちを軽くする。

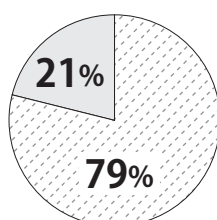
○都会でも地方でも、子どもたちや孫たち将来のために助け合う体験と見える化を！

浦田さんは東京都文京区でSCらと仕掛けをしており、「昔あった支え合ひ・助け合ひが自然に行われることは難しくなり、つながりをつくり直そう」と10年前から地域福祉コーディネーターを配置し、いつでも誰でも型居場所のモデルをつくり、人と人とのつながりの再構築を進めてきた。「都心は地方出身者も多い。つながりを体験してきた人たちが懐かしさを活かし居場所に関わり、さらに幅広い年代で繰り返していくということも重要」と話した。田中さんは「喜ばれるという体験をすると繰り返されるし、見ている人も『自分もやってみよう』となる」と。稲葉さんは「都会だから難しいとか、田舎だから定着するとかではなく、その居場所の空気の度合ひが違うのではないかと」と話した。そして、河田さんは「子どもたちにも次世代にも残したい」と。

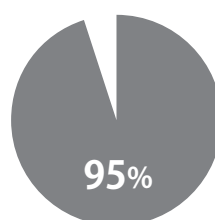
誰もが持つ「役に立ちたい」という気持ちを活かし合ひ、心豊かな関係を次世代のためにも、みんなで広げていくことが大切と共有した。

アンケートの結果 参加者概数：207名 回答者数：78名

回答者の所属先



助け合ひ活動をすすめる立場の方



その他の方

